大岡の風１２月

令和５年１１月３０日
横浜市立大岡小学校
TEL　（７１１）０８１８
FAX　（７１３）３５６３

目の前の子どもたち、ひとり一人を大切に

校　長　馬渡　照代

先月、３年生が、区の音楽会に出演しました。練習の成果を存分に発揮し、素晴らしい演奏となりました。また、１・２年生が、初めて電車を利用して校外学習を実施しました。事前に、大切なことを入念に話し合ってから出かけたのですが、両学年共にそれらをしっかり守って、とても上手に行動することができました。今月は、「大岡の時間」の授業研究会が実施されます。「大岡っ子」が大活躍する姿を、全国から来校される方々に見ていただきます。

さて、最近感じているのは、６年生の子どもたちの「変化」です。目の前を通る子の背が、随分高くなっていることに驚きました。声変わりをしている子もいます。他にも、骨格が変わってがっしりしてきた、男女問わず顔が大人びてきたなど、目に見える変化が現れてきたように思います。もちろん成長の早さは人それぞれですから、まだあまり変化の見られない子どもたちも大勢います。でも、卒業式の頃には、きっと皆大人の階段を歩き始めていることでしょう。

そんな子どもたちを見ていると、いよいよ思春期が始まったことを実感します。保護者の皆様も、日々生活の中で感じられているのではないでしょうか。思春期とは、小学校５、６年生から始まる、身体が一気に大人へと変わっていく時期を指します。それにも関わらず、心はその変化の速さについて行かれず、子どもたち自身は急激な変化に戸惑い、不安定になりやすい時期になります。つまり、心と体のバランスが悪くなる時期です。そんな時、特に悩むのが友達関係です。保護者の皆様にも、「友達が、自分をどう思っているか気になって仕方がない。」と、思い悩んだ日々があったのではないでしょうか。もちろん私も、です。

◇思春期の子どもたちは、親より友人を優先するようになってくる。しかし一方で、客観的視点が身　についてきたことで、「表面上は笑っていても、相手がどう思っているかは分からない。」といった　事実に気付き始める。そのため友人との関係が複雑化し、何かと悩むことが増えてくる。
◇二次性徴を迎えたことで異性への関心が高まる。思春期の精神的動揺をもたらす大きな原因の一つであり、極めて情緒不安定になりやすい状態である。　（ベスリクリニック院長　田中伸明氏）

では、そんな時どうしたらよいのでしょうか。子どもたちを見ていると、いろいろな場面で「助けてサイン」を出していたり、ふとした行動の中で「あれ？」と感じたりすることがあります。正直に自分の心の悩みを話してくれ、多くの場合、解決に繋げることができています。それでも、心の中に抱え込んでしまって、ひとりで苦しんでいる子どもたちもいます。それだけに、思春期を迎えた子どもたちだけでなく、目の前にいる全ての子どもたちの小さな変化を見逃さず、学校としてしっかり対応していくことの重要性を再認識しています。

思春期全般の子どもたちの対応については、田中先生は、次のように述べています。

思春期というのは悩みをもちやすい時期であると同時に、自分を客観視しつつ、他者に批判的な目を向けやすい時期でもあります。そのため親に対しても批判的な価値観をもちやすくなり、反抗的な態度を見せることも多くなるでしょう。親としては、そういった時期であることを理解し、ある程度、子どもの意思を尊重してあげることが大切です。ただ、子どもの言い分は尊重しつつも、その要求を全て受け入れる必要はありません。時に毅然とした態度で接することも必要です。

私たちは、「親」を「教師」と読み替えて、子どもたちの指導に当たりたいと思います。ご家庭でも、何か変化を感じられることがありましたら、すぐにお知らせください。保護者の皆様と手を携えて、子どもたちの抱えている心の問題を解決していきたいと思います。